

## こども達のための Well-Care Visits マニュアル Infants, Children, and Adolescents Well-Care Visits Manual 制作に関する研究

研究代表者 永光信一郎（福岡大学小児科学講座）

### 研究要旨

Well-Care Visits は、プレネイタルから思春期までの成育過程にあるこどもが家族とともに定期的にかかりつけ医を受診し、診察と様々な相談を受けることを言う。こども達は、成育過程における成長と発達健康診査や、必要な予防接種やスクリーニング検査を受け、健康を決定する社会的要因の評価を受ける。健康と栄養や安全に関する情報の提供も受け、学童期や思春期ではメンタルヘルスのスクリーニングも受ける。Well-Care Visits マニュアルは、バイオサイコソーシャルな側面から定期的な診察と保健指導を提供する医療者向けのマニュアルで、米国の健康診査マニュアルである Bright Futures を参考に作成した。Well-Care Visits で行うべきヘルススーパービジョン(健康診査)とヘルスケア・ガイダンス(保健指導)が、Bio-(身体)、Psycho-(心理)、Social-(社会)な視点で記載されている。今後、本邦でも効果的な健診が拡充することが期待されている。

### A. 研究目的

米国のこどもの健診マニュアルである Bright Futures によると、米国ではかかりつけ医による毎年の健康診査 (Health supervision) と各年代における保健指導 (先行的ガイダンス: anticipatory guidance) が実施されている<sup>1)</sup>。本邦とは異なり、米国はかかりつけ医制度が普及しているため集団健診や学校健診は実施されていないことが特徴の一つといえる。Health supervision (健康診査) は、わが国の健康診査に相当し、新生児から1歳までに8回、1歳から3歳までに6回、以降21歳までに7回、合計21回かかりつけ医が実施している。米国の Health supervision の特徴は、かかりつけ医がこども・家族と切れ目なく継続的に関与する事によってこどもとの間に信頼関係が醸成され、情報の集約化とより効果的な予

防介入が可能となることといえる。また、各 Health supervision は約30分以上の時間をかけ、身体診察、成長発達の評価、予防接種、医療面接が実施されている。特に健康を決定する社会的因子を詳細に聴取し、リスク因子・保護因子に応じてこども本人および養育者(親)へ指導、助言、予期ガイダンス (anticipatory guidance: 次回の健診までに起こりうる心身の変化、家庭、集団での課題、事故予防などの指導) の提供を行う事が本邦との大きな相違点といえよう。各 Health Supervision において指導する主要な予期ガイダンスを表1に示す。本邦における健康診査は、疾病等を早期発見し、適切な指導を行い、心身障害の進行を未然に防止するとともに、う蝕の予防、発見、栄養、生活習慣、その他育児に関する指導を行い、幼児の健康の

保持及び増進を図ること等を目的としている。米国では、医療保険制度の違いがあるものの、身体診察、成長発達の評価等に加え、保護者や子ども本人へ医師によるカウンセリングに多くの時間を割いている。

令和4年度に本研究班分担研究者（岡ら）が実施した小児科医会会員に実施した学童期・思春期健診のアンケート調査の結果では、学校健診では学科履修に支障を来す運動器・感覚器などの身体的項目を集団的に把握することに適しているが、家庭状況や親子関係の把握、メンタルヘルスや二次性徴などの把握は、かかりつけ医での個別健診が適していた。本邦においても将来、米国で実施されている Bright Futures に準じた健診が普及することを期待し、日本版 Bright Futures（こども達のための Well-Care Visits マニュアル

Infants, Children, and Adolescents Well-Care Visits Manual）を日本小児科医会、日本小児保健協会の協力を得て制作した。

## B. 研究方法

目次

はじめに

### 第1章

成育医療と子どもたちの Well-Care Visits

- 子どもたちのための Well-Care Visits
- Biopsychosocial に健やかな子どもたちを目指して
- Community Pediatrics と子どもたちの Well-Care Visits
- 成育基本法と小児保健
- 成育基本法とその指標
- 子どもたちのヘルスプロモーション
- 米国の Bright Futures
- 健康の社会的決定要因とは

### 第2章

Well-Care Visits でおこなうこと

A：基本情報の収集と提供

- 情報収集／診察・評価／情報提供
- ジェノグラム（家系図）の作成
- 親子関係の観察
- 養育者の心身の健康状態の観察
- こどもの Social determinants of Health の同定
- 行政機関（こども家庭センター等）との連携
- 予防接種スケジュール

B：ヘルススーパービジョン（健康診査）

Bio- [身体]

- 身体発育のアセスメント
- 発達のアセスメント
- 身体診察のアセスメント
- 小児の心雑音のアセスメント
- 栄養に関するアセスメント
- 視機能のアセスメント
- 聴覚機能のアセスメント
- 口腔保健・歯科疾患のアセスメント
- 皮膚状態のアセスメント
- 整形外科疾患のチェック
- 新生児マススクリーニング検査のチェック

Psycho- [心理]

- 子育てに対する気持ちのアセスメント
- 養育者のメンタルヘルスのアセスメント
- こどものメンタルヘルスのアセスメント
- 親子関係のアセスメント
- 家族関係/サポート資源のアセスメント

Social- [社会]

- 傷害（事故）予防のアセスメント
- こども／保護者の睡眠環境のアセスメント
- こどもの遊び環境のアセスメント
- こどもの運動活動のアセスメント
- 両親の就業や経済状態
- 地域での家族サポート

C：ヘルスケア・ガイダンス

Bio- [身体]

- 適切な食事・栄養・体重管理についてのガイダンス
- 口腔衛生についてのガイダンス

- 適切な日々の運動についてのガイダンス
- 適切な睡眠についてのガイダンス

Psycho- [心理]

- 親・母親の心の健康への支援
- メンタルヘルスケアについてのガイダンス
- いじめに対する予防ガイダンス
- SOS の出し方
- ストレス対処方法
- 希死念慮が疑われた時の対応

Social- [社会]

- 家庭や家庭外での傷害（事故）予防
- 遊ぶ・褒めるを通しての子育て支援
- 学校生活の見守りとガイダンス
- 電子映像メディアの適切な使用
- ゲーム・スマホ・物質依存症の予防
- 性に関する適切な知識の指導
- 公衆衛生的観点からのヘルスケア・ガイダンス

第3章

各月齢・年齢での Well-Care Visit (Review と Check List)

- プレネータル visit
- 生後2週間 visit
- 生後1か月 visit
- 生後2か月 visit
- 生後4か月 visit
- 生後7か月 visit
- 生後10か月 visit
- 1歳 visit
- 1歳6か月 visit
- 2歳 visit
- 3歳 visit
- 4歳 visit
- 5歳 visit
- 6歳 visit
- 7～9歳 visit
- 10～12歳 visit
- 13～15歳 visit
- 16～18歳 visit

- プレコンセプションケア

第4章

不登校の子の健康診査

第5章

特別な医療的ケアが必要な子への対応  
-Children and Youth With Special Health Care Needs-

第6章

健診でチェックされた子どもたちのその先の連携

第7章

Well-Care Visits に関連する連携先リスト

第8章

チャイルドシートの正しい装着方法

第9章

子どもと保護者の睡眠に対する質問・回答

第10章

Well-Care Visits に関連する政策過程

- こどもの権利、アドボカシー
- こどものこえを政策に繋げるーこどもシンクタンク

第11章

Well-Care Visits に関連する参考資料

(倫理面への配慮)

特になし

**C. 研究結果**

子ども達のための well-care visit マニュアル  
Infants, Children, and Adolescents well-care visit  
Manual は以下の内容で制作した。

第1章：Well-Care Visits の意義と成育基本法

第2章：Well-Care Visits でおこなう基本情報の  
収集と提供について記載し、Bio-, Psycho-,

Social-な視点からヘルススーパービジョン（健康診査）とヘルスケアガイダンス（保健指導）について記載した。

第3章：各月齢・年齢での Well-Care Visit のマニュアルと Check Lists を記載した。

第4章、第5章：学校健診を受けることができない不登校児の健康診査と特別な配慮が必要な子どもに対する健康診査について記載した。

第6章、第7章：健診でチェックされた子どもたちのその先の連携についてと、平成30年度の厚労科研究研究班で作成した親子のこころの診療の連携マニュアルから連携機関について抜粋して記載した。

第8章、第9章：令和4年度の母子健康手帳の改定で、省令様式の間診票に記された“睡眠”と“シートベルトの着用”について詳細を記した。

第10章：Well-Care Visits に関連する政策過程について記した。

#### 執筆者一覧

- 相田 潤 東京医科歯科大学 大学院医歯総合研究科 健康推進歯学分野
- 秋山千枝子 日本小児科医会／あきやま子どもクリニック
- 朝貝 芳美 信濃医療福祉センター 整形外科
- 荒田 尚子 国立成育医療研究センター 周産期・母性診療センター 母性内科
- 五十嵐 隆 国立成育医療研究センター 理事長
- 石井 礼花 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
- 板野 正敬 日本小児科医会／いたの子どもクリニック
- 伊藤 善也 日本赤十字北海道看護大学 臨床医学領域
- 伊藤 隆一 日本小児科医会 会長
- 糸数 智美 日本小児科医会／どんぐり子ども診療所
- 稲光 毅 日本小児科医会／いなみつ子どもクリニック
- 井上 信明 国立国際医療研究センター 国際医療協力局
- 上原 里程 国立保健医療科学院 疫学・統計研究部
- 内海 裕美 日本小児科医会／吉村小児科
- 衛藤 暢明 福岡大学医学部精神医学教室
- 大日向雅美 恵泉女学園大学／NPO 法人あい・ぼーとステーション
- 岡 明 日本小児科学会 会長
- 岡田あゆみ 子ども家庭科学研究班 研究分担

- 者／岡山大学学術研究院医歯薬域 岡山大学病院 小児科・小児心身医療科
- 小倉加恵子 子ども家庭科学研究班 研究分担者／鳥取県倉吉保健所（兼）鳥取県子ども家庭部（兼）国立成育医療研究センター
- 片岡 祐子 岡山大学病院 聴覚支援センター
- 蟹江 絢子 東京大学医学部附属病院
- 金子 淳子 日本小児科医会／金子小児科
- 上別府圭子 国際医療福祉大学大学院 家族看護学領域
- 川上 一恵 日本小児科医会／かずえキッズクリニック
- 河村 一郎 日本小児科医会／かわむら小児科
- 北村 邦夫 日本家族計画協会
- 河野 由美 日本小児保健協会／自治医科大学医学部小児科
- 神山 潤 東京ベイ・浦安市川医療センター
- 小枝 達也 日本小児保健協会 会長
- 小西 恵理 淀川キリスト教病院 小児科
- 阪下 和美 子ども家庭科学研究班 研究分担者
- 作田 亮一 子ども家庭科学研究班 研究分担者／獨協医科大学埼玉医療センター 子どもこころ診療センター
- 佐々木溪門 実践女子大学生生活科学部 食生活科学科 おださが小児アレルギー科
- 杉浦 至郎 子ども家庭科学研究班 研究分担者／あいち小児保健医療総合センター
- 鈴木 彩 国立成育医療研究センター 小児内科系専門診療部こころの診療科
- 千先 園子 国立成育医療研究センター 子どもシンクタンク
- 高橋 健 順天堂大学浦安病院 小児科
- 但馬 剛 国立成育医療研究センター研究所 マスククリーニング研究室
- 多田 由紀 東京農業大学 応用生物科学部栄養科学科
- 立花 良之 元国立成育医療研究センター
- 田中 恭子 国立成育医療研究センター 小児内科系専門診療部こころの診療科
- 田原 卓浩 日本小児科医会／たはらクリニック
- 多屋 馨子 神奈川県衛生研究所
- 帖佐 悦男 宮崎大学医学部整形外科
- 永光信一郎 子ども家庭科学研究班 研究代表者
- 成田 雅美 杏林大学医学部小児科学教室
- 仁科 幸子 国立成育医療研究センター 小児外科系専門診療部 眼科
- 平岩 幹男 Rabbit Developmental Research
- 藤井智香子 岡山大学学術研究院医歯薬域 岡山大学病院 小児科・小児心身医療科
- 藤田 一郎 福岡女学院大学 人間関係学部 子ども発達学科
- 星野 恭子 瀬川記念小児神経学クリニック
- 堀口 寿広 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
- 前川 貴伸 日本小児保健協会／国立成育医療研究センター 総合診療部 総合診療科
- 増田 英子 日本小児科医会／増田医院

- 松岡美智子 久留米大学医学部神経精神医学講座
- 松崎 尊信 国立病院機構久里浜医療センター 精神科
- 三平 元 日本小児科医会／ひがしまつど小児科
- 三牧 正和 日本小児保健協会／帝京大学医学部小児科
- 山縣然太郎 こども家庭科学研究班 研究代表者
- 山下 洋 こども家庭科学研究班 研究分担者／九州大学病院 こどものこころの診療部<sup>1)</sup>
- 吉田 雄司 日本小児科医会／よしだ小児科医院 病児保育りんご
- 和田 浩 日本小児科医会／健和会病院 小児科

## D. 考察

### □ 効果的健診の提言

本邦で実施されているこどもの健診は、母子保健法第十二条で、市町村は、満一歳六か月を超え満二歳に達しない幼児、及び満三歳を超え満四歳に達しない幼児に対し、健康診査を行わなければならないとなっており、第十三条では、前条の健康診査のほか、市町村は、必要に応じ、妊産婦又は乳児若しくは幼児に対して、健康診査を行い、又は健康診査を受けることを勧奨しなければならないとある。法定健診による1歳6か月児健診と3歳児健診以外には地方交付税措置された3～6か月および9～11か月児健診が実施されている。しかし、乳児期早期における健診体制が十分でないこと、および3歳児健診以降の健診体制が十分ではないことから、令和5年度補正予算による母子保健医療対策総合支援事業で1か月児健診と5歳児健診が補助対象となった。一方、就学期以降の学童及び思春期の健診は学校健診の形で実施されている。今後さらなる効果的な健診の拡充が期待される。効果的健診を提言していくなかで、健診実施によるアウトカムの評価も平行して検討していくことが必要である。

### □ 本マニュアルの使用方法

Well-Care Visits マニュアルは、バイオサイコ

ソーシャルな側面から定期的な診察と保健指導を提供する医療者向けのマニュアルである。本書は、米国の健康診査マニュアルであるBright Futuresを参考に作成された。米国と本邦における健康診査回数は異なるため、本マニュアルにおける診察項目や保健指導の概念を、予防接種や一般診療でこども達が受診した時に使用することが推奨される。特に専攻医においては、こどもをバイオサイコソーシャルな存在として捉え、入院診療、外来診療においても親子関係や、こどもの健康を決定する社会的要因を評価することが求められる。その際に、本マニュアル第3章の各月齢・年齢におけるWell-Care Visitsのチェックリストおよびヘルススーパービジョン、ヘルスケアガイダンスを確認し、問診等を行うことが奨められる。

## E. 結論

日本小児科医会、日本小児保健協会の協力を得て、日本語版Bright Futures（こども達のためのWell-Care Visits マニュアル Infants, Children, and Adolescents Well-Care Visits Manual）を製作した。

### 【参考文献】

1. Hagan JF, Shaw JS, Duncan PM, eds. Bright Futures: Guidelines for Health Supervision of Infants, Children, and Adolescents. 4th ed. Elk Grove Village, IL: American Academy of Pediatrics, 2017

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

1. Shinno K, Nagamitsu S. Toward the Goal of Leaving No One Behind: Orthostatic Dysregulation. JMA journal. 2023 Jul 14;6(3):334-336
2. Fujita T, Ihara Y, Hayashi H, Inoue T, Nagamitsu S, Yasumoto S, Tobimatsu S.

- Scalp EEG-recorded high-frequency oscillations can predict seizure activity in Panayiotopoulos syndrome. *Clinical neurophysiology*. 2023 Dec;156:106-112.
- 瀬戸上 貴資, 太田 栄治, 伊東 和俊, 小寺 達朗, 音田 泰裕, 川野 祐康, 新居見俊和, 永光 信一郎. 血清クレアチニン値は超低出生体重児における慢性腎臓病の早期発見の指標となるか? *日本周産期・新生児医学会雑誌* 2023;59(2);219-226
  - 土生川千珠, 村上佳津美, 石井隆大, 柳本嘉時, 井上建,,, 永光 信一郎ほか COVID-19 対策での長期休校措置前後の小児心身症関連疾患受診者数の推移 *日本小児科学会雑誌* 2023;127(10);1277-1288
  - Kodaka M, Nagamitsu S, DeVlyder J. A Japanese Version of the Ask Suicide-Screening Questions (ASQ) Instrument. *Journal of Suicidology* 2023; 18(1): 449-455.
- ## 2. 学会発表
- 永光 信一郎. 子どものこころの診療 ―いま、小児科医に期待されていること―/第 151 回日本小児科学会岩手地方会 (2023.6.10、岩手)
  - 永光 信一郎. 成育過程の健康な子ども/病気の子どものを診る―新たな健診と小児心身医学の展望―/第 30 回日本小児心身医学会中国四国地方 (2023.6.18、WEB 講演)
  - 永光 信一郎. 思春期の不登校に対する CBT アプリ治療/第 42 回日本思春期学会総会・学術集会 (2023.8.26、東京)
  - 永光 信一郎. 学童・思春期のメンタルヘルス ―ヘルスプロモーションの重要性―/第 180 回日本小児科学会広島地方会 (2023.12.17、広島)
  - 永光 信一郎. 乳幼児の睡眠と健康 ―令和 5 年度母子手帳の改訂―/令和 5 年度日耳鼻・臨床耳鼻科医会 福祉医療・乳幼児担当者全国会議 (2024.1.28、東京)
  - 永光 信一郎. GIGA スクールを活用した思春期のヘルスプロモーション/第 95 回日本小児科学会宮崎地方会 (2024.2.11、宮崎)
- ## G. 知的財産権の出願・登録状況
- (予定を含む)
- 特許取得  
なし
  - 実用新案登録  
なし
  - その他  
なし

表1 各 visit における予期ガイダンス

Anticipatory Guidance					
Prenatal visit	健康を決定する社会的要因	両親・家族の健康	新生児ケア	栄養と食事	事故予防
Newborn visit	健康を決定する社会的要因	両親・家族の健康	新生児の行動とケア	栄養と食事	事故予防
First week visit	健康を決定する社会的要因	両親・家族の健康	新生児の行動とケア	栄養と食事	事故予防
1 Month visit	健康を決定する社会的要因	両親・家族の健康	乳児の行動と発達	栄養と食事	事故予防
2 Month visit	健康を決定する社会的要因	両親・家族の健康	乳児の行動と発達	栄養と食事	事故予防
4 Month visit	健康を決定する社会的要因	乳児の行動と発達	口腔衛生	栄養と食事	事故予防
6 Month visit	健康を決定する社会的要因	乳児の行動と発達	口腔衛生	栄養と食事	事故予防
9 Month visit	健康を決定する社会的要因	乳児の行動と発達	しつけ	栄養と食事	事故予防
12 Month visit	健康を決定する社会的要因	生活リズムの確立	食事と食欲の変化	かかりつけ歯科医の確保	事故予防
15 Month visit	コミュニケーションと社会的発達	睡眠週間と課題	気質、発達、行動、しつけ	歯科衛生	事故予防
18 Month visit	気質、発達、行動、しつけ	コミュニケーションと社会的発達	テレビ視聴とデジタルメディア	健康的栄養	事故予防
2 Year visit	健康を決定する社会的要因	気質、行動、しつけ	言語発達の評価	トイレトレーニング	事故予防
2.5 Year visit	家族の役割	言語の促進とコミュニケーション	社会性の発達促進	就園の準備	事故予防
3 Year visit	健康を決定する社会的要因	きょうだいや仲間との遊び	リテラシー活動の奨励	健康的栄養と運動の促進	事故予防
4 Year visit	健康を決定する社会的要因	学校の準備	健康的な栄養と習慣の勧め	メディア使用	事故予防
5 and 6 Year visit	健康を決定する社会的要因	発達とメンタルヘルス	学校	身体成長と発達	事故予防
7 and 8 Year visit	健康を決定する社会的要因	発達とメンタルヘルス	学校	身体成長と発達	事故予防
9 and 10 Year visit	健康を決定する社会的要因	発達とメンタルヘルス	学校	身体成長と発達	事故予防
Early adolescence visit	健康を決定する社会的要因	身体成長と発達	情緒的健康	リスク行動の軽減	事故予防
Middle adolescence visit	健康を決定する社会的要因	身体成長と発達	情緒的健康	リスク行動の軽減	事故予防
Late adolescence visit	健康を決定する社会的要因	身体成長と発達	情緒的健康	リスク行動の軽減	事故予防